

みまぐ 私の逸品 ハワイの女性神像 (アウマクア)

カメハメハ王朝時代まで、川の流れる谷筋がハワイ先住民の居住空間であった。上流にはタロイモ田が広がり、中流に平民の家々が、下流の平地には祭壇と首長の荘宅がたてられていた。そして海岸にはボラの養殖池があった。戦争の神(クー)、生命の神(カネ)、農耕の神(ロノ)、海の神(カナロア)など神格の高い神がみは祭壇から人びとの生活を見守っていた。首長は毎年ロノ神を招いて司祭に供物をささげさせ、豊穡ほうじょうに感謝する儀礼をとりおこなった。恐ろしい火山の神、ペレには詠唱と性的なフラの踊りを奉納し、神の怒りをなだめた。

家では家族や個人が神をまつた。アウマクアとよばれる女性神像は祖先の精霊。この祖先像は、鋭い輪郭、真珠母貝の目、毛髪をつけた頭など頑健なハワイ人の身体をあらわし、力強く好戦的な表情をみせている。男性に負けない女性の「指導力」を象徴しているという。この神は、家族の平安と健康を守ると同時に、邪悪な悪霊を退治してくれると信じられていた。さらに妖術によって誰かに危害をくわえる力もあるという。

ハワイ王国は一九世紀初頭にキリスト教を受容し、カプ(タブー)やハワイの伝統宗教を信ずることを禁止した。そのために、ハワイの人びとは豊かで平和な社会で暮らすために頼ってきた、生きた精霊や神がみとの関係を放棄してしまった。

この神像はホノルルのビショップ博物館所蔵のアウマクアをハワイ人芸術家が彫りあげた「ほんもの」である。



標本番号 H0162514
地域 アメリカ合衆国 ハワイ諸島
収集年 1988年

民博館長 須藤健一すどうけんいち